



ぼくしょう なか ま はなし
牧場の 仲間たちの お話

みず の ば きん ぎょ 水飲み場の 金魚

わたしは ^{あに}兄たちと、^{きんぎょ}金魚ばかりで ^{きんぎょ}金魚を ^か飼っていました。
^{きんぎょ}金魚を ^み見るのは ^{たの}楽しい ものです。ある ^ひ日 わたしたちは、
^{にゅうぎゅう}乳牛の ^{ベツィ}が ^{みず}水を ^の飲むために ^{つか}使っていた、^{そと}外の
^{みず}水の ^ば金魚を ^{うつ}移すことに しました。

^{まち}町の ^{とも}友だちが わたしたちの ^{ぼくしょう}牧場を ^{おとす}訪れると、ベツィが
^{みず}水を ^の飲む ^{とき}時に ^{きんぎょ}金魚を ^の飲みこんで しまわないことに
びっくりします。もちろん、そんな ^おことは ^お起こりません。
^{うし}牛が ^{みず}水を ^の飲む ^{とき}時は、^{すいめん}水面から ^{みず}水を ^す吸い上げるように
して ^の飲むからです。金魚にとって、^の飲みこまれないように
するのは ^{かんたん}簡単なのです。



ある 冬の ことです。夜の 間に、気温が ものすごく 下がりました。それで、水飲み場の 水が こおってしまいました。兄たちと わたしは、
金魚が どうなって しまったかと、納屋に かけつけました。金魚たちまでが こおってしまったのを 見て、わたしたちは 悲しく なりました。
死んでしまったに ちがいないと 思ったからです。



ベツィに ^{みず}水が ^{ひつよう}必要だろうと、父は ^{ちち}水飲み場に ^{みず}水を ^{なが}流し入れました。
それで、^{こおり}氷が ^{すこ}少しずつ ^と解けてきました。

その後、^{あと}金魚が ^{きんぎょ}どうなつたと ^{おも}思いますか？
^{みず}水が ^と解けると、^{きんぎょ}金魚は ^{およ}また、^た泳ぎ出したのです。
^い生きていたのです！

^{かみさま}神様が ^{つく}造られた ^い生き物の ^{もの}おどろくべき
^{いちめん}一面でした！



^{かみ}「神は ^{うみ}海の ^{おお}大いなる
^{けもの}獣と、^{みず}水に ^{むら}群がる
^{うご}すべての ^{うご}動く
^い生き物とを、
^{しゅるい}種類に ^ししたがって
^{そうぞう}創造された。」

^{こう}こ ^{やくせいしょ}やくせいしょ ^{そうせい}そうせい ^きき
(口語訳聖書、創世記 1:21)